

岡山県立

## 博物館だより

73号

- 館長室より …………… ②
- 博物館 NEWS …………… ③
- 特別展を終えて …… ④
- 企画展を終えて …… ⑤
- 教育普及事業 …………… ⑥
- 学芸員ノート …… ⑦⑧
- INFORMATION …… ⑧



＜特別展より＞ [重要文化財] 火焰型土器／新潟県堂平遺跡出土  
 (文化庁蔵、津南町教育委員会保管、小川忠博氏撮影)



＜企画展より＞「岡山の戦国時代」 関連行事  
 『本物のよろいや鉄砲にふれてみよう!』



＜交流展より＞「古代出雲展—国宝青銅器の世界—」 展示風景

## 岡山・島根文化交流事業

岡山県立博物館と島根県立古代出雲歴史博物館は今年度から3年計画で交流事業を始めます。初年度の今年度は1月から2月にかけて「古代出雲展—国宝青銅器の世界—」を開催し、展示室は多くの人々にぎわいました。この事業は、平成18年度から3年間実施した岡山・香川文化交流事業に引き続き、博物館の広域連携事業の第2弾です。開催には様々な試行錯誤や紆余曲折がありました。

今回の事業は、岡山・香川の交流事業が両県知事の合意事項として、トップダウンで計画されたものと異なり、最初から両県の館同士の協議から始めました。通常、博物館はそれぞれ中長期の展示計画を持ち、少なくとも今後5年間程度の展示内容の準備を進めています。新たな計画を実施するには、時間的余裕はありません。

平成18年5月に出雲市で開催された日本博物館協会中国支部総会で島根県立古代出雲歴史博物館の館長にお目にかかり、まず、交流事業の意義を話しました。島根県では出雲大社に隣接して新しい博物館を平成19年3月の開館に向けて準備中であり、趣旨には賛同していただきましたが、「今後の検討事項」として継続的に話し合いを進めることにしました。

平成19年11月には、当館の担当者が出雲市を訪れ、両館の開館の経緯、今後の展示計画や展示室の状況、また、交流展の展示テーマや資料の検討などについて意見交換を行い、実施に向けて今後も両館で定期的に会議を開催することで合意しました。

平成20年3月末になり、島根県から「県の財政状況や当館が開館から間もないことなど諸般の情勢により相互交流による展覧会の実施は困難」とのお話がありました。このため、交流展はあきらめ、島根県の理解を得て館蔵品を借用して岡山で公開する方式に変更し、引き続き準備を進めることにしました。

6月には、平成21年度予算要求も間近に迫ったことから、当館の担当者が松江市で島根県と今後の年次計画や初年時の青銅器の借用などについて具体的な協議を行い、基本事項で合意。12月になり、来年度予算もほぼ見通しが付いたことから、具体的な借用交渉を進めようとした矢先、島根県から、「荒神谷の銅剣については、劣化が著しく、文化庁から移動を伴う貸し出しは慎重にとの指導があり、難しい」との連絡が入りました。初年度の事業は出雲の青銅器を中心に計画を進めてきましたので、荒神谷遺跡から発掘された国宝の銅剣が展示できなければ、展覧会の開催も危ぶまれます。打開策の検討のため、年明けの1月に再び担当者を出雲市に派遣。島根県には文化庁と借用の可能性について協議していただきました。結果、銅剣は本数を減らして、保存状況の良い1セット（3本）のみ、他はレプリカ・模

鑄品を使用することで了解を得ることができました。こうして平成22年1月5日「古代出雲展」は無事開催したのです。

複数の館で実施する事業は、相互理解や連絡調整に多くの労力や時間を要しますが、単独の館では不可能な幅広い展示が可能になります。また、多くの人々の交流も始まります。今年度から始めた島根県との交流事業は今後2年間継続の予定です。来年度は「古代出雲展Ⅱ—神々の世界—」と題して、平成23年1月の開催に向けて着々と準備を進めています。3年目の最終年には、相互交流の兆しも出てきました。どうかお楽しみに。

(館長 芦田和正)



「古代出雲展—国宝青銅器の世界—」テープカット



## 施設のUD化推進事業

本館では昨年度から3年計画で施設のUD化を進めています。今年度は、来館者用のトイレを改修しました。高齢者や車いすの方、妊婦や乳幼児など様々な方が快適に利用できるオストメイト対応の多目的トイレとして整備しました。また、職員の意識改革のため、各種「UD講座」にも積極的に参加しました。

## 「太刀 銘 正恒」寄贈記念特別陳列

会期：平成21年9月10日(木)～10月4日(日)

このたび古備前と呼ばれる平安時代末期(約900年前)に活躍した初期備前刀工を代表する名工である正恒銘の太刀が寄贈されたことに伴い、特別陳列を開催しました。

正恒の作品には、国宝が5口、重要文化財が8口知られていますが、本作も正恒の典型的かつ最高位の作風を示しており、国の重要美術品に認定されています。

## 「古墳造営模型」の寄贈

(財)岡山県教育弘済会から前方後円墳の造営方法を示した「古墳造営模型」を寄贈していただきました。出前授業や館内授業などの教育普及活動や体験コーナーで活用します。(副館長 平井泰男)



## 岡山・島根文化交流事業 「古代出雲展 - 国宝青銅器の世界 -」

会期：平成22年1月5日(火)～2月7日(日)

本館では、中四国各県の県立博物館との文化交流を推進しています。今年度から3年計画で島根県と交流展を開催します。

中国地方の南北に位置する岡山県と島根県は、古代吉備文化、古代出雲文化という特徴ある地域文化を形成するとともに、様々な交流も育んできました。初年度は、我が国古代史において独自の文化を創出した出雲文化の代表的な国宝文化財である荒神谷・加茂岩倉両遺跡出土の青銅器を島根県立古代出雲歴史博物館から借用し、古代吉備の青銅器と合わせて古代青銅器の世界を紹介しました。

第1部「銅鐸」では、絵画銅鐸や同範銅鐸など加茂岩倉遺跡出土の銅鐸、荒神谷遺跡出土の銅鐸や加茂岩倉遺跡出土の銅鐸と同範の念仏塚遺跡出土の銅鐸など吉備の銅鐸を、第2部「武器形青銅器」では、荒神谷遺跡出土の銅矛や銅剣、倉敷市の平形銅剣・笠岡市の銅戈など吉備の武器形青銅器を紹介しました。

会期中、6,124名の方々に御覧いただき、関連行事にも多くの皆様に御参加いただきました。(主幹 正木茂樹)



### ミニ銅鐸づくり

2日間で180名が参加し、親子や家族で名前や絵を彫り込んだオリジナル銅鐸を作成する。



### 記念講演会

島根県立古代出雲歴史博物館学芸部長松本岩雄氏による「青銅器からみた古代出雲」を約200名が拝聴する。



### ボランティアガイド

10数回に及ぶ現地見学や勉強会の成果を生かして3日間、284名のお客様に展示ガイドを実施。アンケートには多くのお礼の声が寄せられた。

## 「土と火のオブジェー縄文の土器・土偶から現代備前焼まで」

本展覧会では、人々が創造した土と火による造形美を、古代から現代まで紹介しました。会期中6,627人の方々に御覧いただき、悠久の歴史の中で、人々が生み出してきた土と火の文化を存分に堪能していただくとともに、それらの作品に込められた人々の願いや祈りに思いをはせていただけたのでは…と思っています。

### 広報用チラシ（表）

写真は「重要文化財」火焰型土器／新潟県堂平遺跡出土と「備前焼 角花生」伊勢崎淳作



### 2部6章構成ー素材はすべて土

『第一部 原始・古代の美』。「縄文の動なる美」では、越後・信濃・常陸・陸奥などの西日本とは異なる躍動的な東日本の縄文土器や土偶等を紹介しました。新潟県津南町の火焰型・王冠型土器、長野県尖石縄文考古館の土偶や青森県亀ヶ岡遺跡出土品などが並んだ「縄文ワールド」は壮観でした。一方「弥生の静なる美」では、落ち着いた精美な吉備の弥生土器、特殊器台や分銅形土製品など、郷土の文化財を紹介しました。当時を思わせる人面や人形土製品、古代人の創る動物などユーモラスなコーナーもつくりました。「古墳を飾る美」では吉備・伊勢・摂津などの形象埴輪が所狭しと並びました。なかでも松阪市宝塚1号墳出土の組み合わせ式船形埴輪は高度な技術を感じる逸品でした。また、「奈良・平安を彩る美」では、釉薬をかけ、風流さや鮮やかさを求めた焼き物を紹介しました。

『第二部 中・近世から近・現代の美』。「陶磁を彩る



展示風景

会期：平成21年10月9日（金）～11月15日（日）

美～六古窯から～」では瀬戸をはじめとする六古窯の個性的な美を紹介しました。最後に「備前焼の美～古備前から現代へ～」では、吉備の大地に生まれた備前焼について、各時代の特色ある作品や、重要無形文化財保持者（人間国宝）の方々の作品で継承される伝統美を紹介しました。

### 様々な関連行事

会期中、子どもから大人まで楽しめる多彩な関連行事を実施しました。

「縄文土器の正体」と題した國學院大學名誉教授小林達雄氏の記念講演会では120名の聴衆が、重要無形文化財保持者



記念講演会

伊勢崎淳氏の特別解説には40名の聴衆が両氏のお話に聞き入り、魅了されました。体験的事業としては、新見市法曾陶芸館・猪風来美術館館長猪風来氏による「縄文の土器・土偶・土面づくり」に56名が参加、作品を製作した後、野焼きを行いました。「ぼく



縄文の土器・土偶・土面づくり

の、わたしのオブジェづくり～古代の土器やにはにわにチャレンジ!」では、岡山大学教育学部の学生に御協力いただき、親子66名が紙ねんどのオブジェを作りました。これらの作品は、2階ロビーに展示しました。「本物の縄文土器を見て、さわってみよぼくの、わたしのオブジェづくり～古代の土器やにはにわにチャレンジ!」では、202名の方が火焰型土器や吉備の弥生土器の破片を間近で見たり、手にとったりしました。また、初めての試みとして、会期中1週間連続のボランティアガイドも行い、156名の入館者から好評を得ました。（主幹 正木茂樹）



ぼくの、わたしのオブジェづくり～古代の土器やにはにわにチャレンジ!



## 「岡山の戦国時代」

会期：平成22年2月11日(木・祝)～3月14日(日)

戦国時代は各地で有力な武将が覇権を争い、歴史が激しく動いた時代として、近年幅広い世代から注目を集めています。本展覧会では、浦上氏・宇喜多氏を中心に岡山の戦国時代を古文書などの歴史資料から紹介しました。武将の発した文書や、当時の資料を読み解くことによって、岡山の戦国時代史を見直すきっかけになればと企画しました。



### 広報用チラシ(表)

写真は「重要文化財」絹本着色宇喜多能家像と浦上政宗書状、及び「岡山県指定重要文化財」紅糸素懸威銀箔押二枚胴具足

### 展示の構成

展示は時代順に3章立ての構成としました。

「第1章 戦国武将浦上氏の登場」では、備前の守護代などをつとめ、戦国時代前半の備前の主役であった浦上氏について紹介しました。守護大名であった赤松政則を補佐して活躍した浦上則宗や、赤松義村を殺害し主家をしのぐ勢威をほこった浦上村宗について、備前国の寺院などに発した文書などを手がかりに、その活動を探る内容としました。また、浦上政宗と宗景が地域の武士たちに、味方するよう求めている史料などから、備前国内を中心に抗争を繰り広げた浦上政宗・宗景兄弟の確執について考えるものとしました。

「第2章 宇喜多直家の台頭」では、宇喜多直家を中心に宇喜多氏と関係する合戦について関連資料をもとに紹介しました。まず直家の祖父にあたり、多くの合戦で主君を助けて戦ってきた宇喜多能家の画像を御



展示風景

覧いただきました。数少ない戦国時代の寿像(生きていた像)である重

要文化財「絹本着色宇喜多能家像」は戦国時代らしい鋭い眼光の武将を表現しており、多くの戦国時代ファンをひきつけました。また、宇喜多直家と主君である浦上宗景が衝突した天神山合戦などについて、最近発見された史料を展示しました。

「第3章 宇喜多秀家から小早川秀秋へ」では、直家没後宇喜多家を継いだ宇喜多秀家について、領国支配に関する史料を展示するとともに、関ヶ原の合戦後岡山城主となった小早川秀秋についても紹介しました。また、全国的にも有名な「高松城の水攻め」について、その戦いを語り継いだ資料や実際に籠城した人物の書状や陣羽織などを展示しました。

### 関連行事について

会期中、より戦国時代に興味をもっていただく関連行事を実施しました。



記念講演会

「宇喜多家を興した者と潰した者」と題した就実大学名誉教授柴田一氏の記念講演会では280人の聴衆がそのお話に聞き入りました。また、日曜日に3日間実施した「本物のよろいや鉄砲にふれてみよう!」とした体験行事にはあわせて350の方が参加されました。参加者は、資料を実際に手にとって、その重みや質感を感じていました。よろいや鉄砲の重さに大変驚いた様子でした。

### 展覧会を終えて

会期中8,027人の方々に御覧いただきました。わかりにくいと思われがちな古文書を多く展示した展覧会でしたが、多くの方が古文書とキャプションをつきあわせ、熱心に観覧している様子をうかがうことができ、あらためて、戦国時代についての関心の高さを感じました。

(学芸員 浅野慎太郎)



## 教育普及事業の概要

平成21年度下半期の主な教育普及事業は次のとおりです。

### 館内授業・出前授業

「館内授業」は本館で実物資料に触れたり展示を見学したりするもので、「出前授業」は学芸員が実物資料を持って、学校に出向いて行う授業です。いずれも学校教育との連携事業として、実施しています。今年度も多くの学校より依頼がありました。特に、小学校3年生の学習単元である「昔の暮らし」の授業は好評を得ています。



体験「昔の暮らし・道具」の授業

館内授業は42校、出前授業は14校の学校で行いました。

### 学芸員解説

毎月第2・4土曜日の午後2時から、学芸員が展示解説を行っています。展示会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しただいています。解説の後には多くの質問が寄せられることもあり、熱心に展示を御覧いただいています。



「古代出雲展 一国宝青銅器の世界」  
展示解説の様子

### 中学生職場体験(チャレンジワーク)・学芸員実習

今年度もチャレンジワークとして岡山市内の中学校2年生(4校17名)が博物館業務を体験しました。博物館に入ってみて、想像以上に大変な学芸員の仕事やその厳しさを感じたようです。

2月には学芸員をめざす県内の大学生9名が博物館業務の実習と、企画展の関連行事などで博物館活動を支援する実習に取り組みました。



### 吉備の国ジュニア歴史スクール



博物館での館内授業  
「古墳って何？」

### 参加校でのまよめの授業



上半期にスクールの第1日目として県内の古墳を廻った高梁市立成羽小学校、玉野市立後閑・胸上・鉾立小学校、吉備中央町立上竹荘・豊野・下竹荘小学校の子どもたちは、第2日目として館内で実物資料に触れながら授業を受けました。あわせて当日の展示会も楽しく見学しました。各学校では2日間の成果をもとに学習のまとめとして新聞作りや発表会を行いました。今年度の様子は報告集にまとめられて県内のすべての小学校へ配布します。



報告集

(学芸員 鈴木力郎)



## 特別陳列 「密教の世界」

会期：平成21年9月10日（木）～10月4日（日）

平成21年は、天台宗の代表である座主<sup>ざす</sup>が、高野山真言宗の総本山金剛峯寺<sup>こんごうぶじ</sup>をはじめて公式に訪問した歴史的な年として注目を集めたことから、この機会に県内の天台・真言両宗寺院に伝来した密教の名宝を展示しました。

密教は、大乘仏教の中から生まれた仏教で、インドで成立し、中国を経て日本に伝わりました。密教は、この世界（現世）での利益や幸せを強く意識しているのが特徴で、役割に応じて多くの仏が考え出され、信仰を集めてきました。また、言葉では伝えることが難しいとされる密教には、多くの法具や曼荼羅<sup>まんだら</sup>などが必要とされ、作られてきました。

展示では、日本に本格的に密教をもたらした最澄・空海の紹介にはじまり、記憶力を高めるとされる虚空蔵求聞持法<sup>くうざうくもんじほう</sup>などの各種修法<sup>しゆほう</sup>や仏像・絵画に表現された密教で信仰される不動明王などの諸尊像を紹介しました。また、神仏習合の歴史の中で高野四社



両界曼荼羅（胎藏界・部分）  
瀬戸内市 宝光寺蔵

明神<sup>みょうじん</sup>など密教と結びついた日本の神々も紹介し、実際の資料から密教について概要がつかんでいただけるよう工夫しました。

神秘的な密教の世界を感じていただく機会になったのではないのでしょうか。（学芸員 河合 忍）

## 特別陳列 「くらしの中のガラス」

会期：平成21年11月20日（金）～平成22年2月7日（日）

日本人がガラスを手にしたのは弥生時代以降のことと考えられています。国内でのガラスの素地<sup>きじ</sup>生産は、遅くとも飛鳥時代までには始まったと考えられています。室町時代までは技術的にあまり発達が見られず、江戸時代になってからガラス器は本格的に作られ始めます。今回は、コップや瓶など私たちの生活に密着した素材のガラスを歴史的にたどりました。

展示は、弥生中期のガラス滓<sup>さい</sup>（岡山市百間川今谷遺跡出土）に始まり、カラフルで大小様々な古代ガラス玉や管玉、仏像の瓔珞<sup>ようらく</sup>に用いられたガラス玉から長崎ガラスの重箱に江戸切子の鉢と時代を追って御覧いただきました。さらに氷の貴重さが伺える大正時代のかき氷用の氷コップ、昭和中期、倉敷市の豊表織機の部品だったガラス製筏<sup>おさ</sup>また、民藝運動の中から生まれた倉敷ガラスを展示し、ガラスとくらしの関わりを古代から現代まで紹介しました。身近すぎてあまり考えたことのなかったガラスを見直す機会になったのではないかと思います。

（学芸員 信江啓子）



江戸切子深鉢 江戸時代 岡山県立博物館蔵



展示解説の様子

## 特別陳列 「虫明焼」

会期：平成22年3月18日（木）～4月18日（日）

虫明焼は、岡山県瀬戸内市邑久町で焼かれている陶器で京焼の流れを汲むものです。この虫明の地は岡山藩筆頭家老、伊木家の領地で、お庭焼として、この地に焼物が生まれました。

その作陶の技法としては透明釉を基本としたもので、松の木の花の灰釉、鉄釉、銅釉など作品の種類は多様です。筒描き、絵付け、掛け分け、流しぐすりなど伝統的な手法で作られた作品は、和室の中に映える華やかさと同時に落ち着いた雰囲気をかもしだします。やわらかな曲線と、緑がかかった薄茶色など、色調の美しさも特徴です。かつての窯には、名工、清風与平や宮川香山が招かれ、尾形乾山や古田織部らの手法を採り入れつつ、独自の技法が生まれ、地位を確立したといえます。現在の窯元も伝統の中にも新しい虫明焼の作陶に取り組み、高い評価を得ています。

今回の展示では、虫明焼という焼物を知っていたくために、明治・大正期から現代の作品を中心に

展示をし、古虫明と呼ばれる古い時代のもも紹介しました。これらは、地元、瀬戸内市の邑久町公民館に常設展示してある虫明焼で、生涯をかけて古備前や虫明焼などの収集に努められた故太田巖氏（1906～1999）から、旧邑久町に寄贈された貴重なものです。

さらに、虫明焼中興の祖とされる森香洲や近代の名工、岡本英山をはじめとする作品を紹介しました。お茶席などで色々な取り合わせにおいて、どの焼物にもしっかりとあう虫明焼の優美な世界を感じていただけたと思います。（学芸員 鈴木力郎）



竹絵茶碗 明治時代 森 香洲 作 個人蔵  
舟形花入 江戸時代 二代楽（真葛）長造 作 個人蔵

## INFORMATION

### ●●●●● 平成22年度前期の展示予定 ●●●●●

#### 企画展 「売薬の祖 万代常閑」

会期 平成22年4月22日（木）～5月23日（日）

#### 特別陳列 「く仏」胎内の世界－餘慶寺千手観音納入品－

会期 平成22年5月27日（木）～6月27日（日）

#### 特別陳列 「幕末維新の名刀」

会期 平成22年6月29日（火）～8月1日（日）

#### 岡山・香川文化交流展 第25回国民文化祭・おかやま2010協賛事業 瀬戸内国際芸術祭2010協賛事業

#### 「瀬戸内源平合戦－兵たちの世界－」

会期 平成22年8月5日（木）～9月5日（日）

#### 特別陳列 「大地からの便り2010－県内の発掘調査報告展」

会期 平成22年8月5日（木）～9月5日（日）

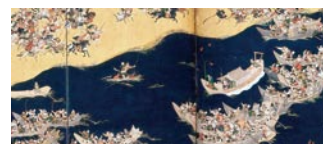
#### 特別展 第25回国民文化祭・おかやま2010協賛事業

#### 「鬼ノ城－謎の古代山城－」

会期 平成22年9月10日（金）～10月17日（日）



延寿返魂丹看板 岡山県立博物館蔵



源平合戦図屏風（部分）  
香川県立ミュージアム蔵



鬼ノ城  
写真提供：岡山県古代吉備文化財センター

岡山県立博物館だより 第73号

発行日／平成22年3月31日

発行者／岡山県立博物館 館長 芦田 和正

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5

TEL：086-272-1149 FAX：086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。